

授 業 科目名	【 G 】	民法(相続)	区 分		開講年次	【 G 】 2	単位数	【 G 】 2
	【 H 】	民法(相続)	選 択			【 H 】 2		【 H 】 2
科目区分	専門科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブ タイトル	民法一相続法:遺産相続制度を理解する					担当者	小川 清一郎	
授業概要	【概要】	親族法は、家族の原点である男女の婚姻関係と親子関係について定め、相続法は、家族の一員が死亡した場合の遺産承継について定めたものである。 この授業では、遺産の承継について、相続人の範囲と順序、相続財産の内容、相続分、遺産分割、相続の承認・放棄、相続人の不存在、遺言、配偶者の居住権、遺留分等について説明する。						
	【到達目標】	遺言がない場合の法定相続の仕組みを理解した上で、遺言がある場合の相続について処理することができ、相続をめぐる紛争について、民法の条文を正確に引用して、一定の解決を導くことができる。						
履修条件	特になし							
アクティブ ラーニングの 方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【○】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【－】	グループワーク	【－】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①		◎ (よく当てはまる)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)②		－ (当てはまらない)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)③		－ (当てはまらない)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)④		－ (当てはまらない)					
他科目との 関連性	家族法のうち、婚姻・離婚、親子、後見、保佐、補助、扶養といった身分上の問題については、民法(親族)で扱う。							
教科書	我妻榮・有泉亨・遠藤浩・川井健・野村豊弘『民法3 親族法・相続法 第5版』(勁草書房・2024年) 六法(最新版を用意すること。出版社、判例の有無は問わない)							
参考書	水野紀子・大村敦志(編集)『民法判例百選Ⅲ 親族・相続 第2版』(別冊ジュリスト 239) 有斐閣2018年。この参考書を購入する必要はないが、授業中に必要に応じてその他の参考書も紹介するので、図書館を利用して調べてほしい。							
評価方法	中間と期末の2回の理解度の確認で評価します。それぞれ50%。中間の時期(2週間前に告知します)、期末は最終授業で行います。							
フィードバック 方法	毎回前回の確認をおこないます。理解できていなかった点について復習し、それでも分からない点や疑問点がある場合は、質問すること。							
評価基準	S:授業内容を理解しており、秀でた応用力がある(90点以上)、A:授業内容を理解しており、応用力もある(80点以上)、B:授業内容を理解している(70点以上)、C:最低限の基礎力を備えている(60点以上)、D:基礎力が不足している、E:基礎力が著しく不足している、F:出席やレポート提出の状況が著しく悪い(評価不能)。							

授 業	【 G 】	民法（相続）	区 分	開講年次	【 G 】 2	単位数	【 G 】 2
科目名	【 H 】	民法（相続）	選 択		【 H 】 2		【 H 】 2
授業回数	授業内容						
1	「相続法とは何か」相続の意義と変遷について理解する。						
	予習：	教科書で相続制度の変遷を調べる(2時間)		復習：	現在の相続制度の要点を整理する(2時間)		
2	「相続人」相続人の範囲と順位、並びに相続欠格について理解する。						
	予習：	教科書・参考書で胎児の相続に関して調べる(2時間)		復習：	相続人の範囲と順位、並びに相続欠格について整理する(2時間)		
3	「相続の効力①―相続分」相続財産の範囲について理解する。						
	予習：	相続人の相続分はどのようにして定まるか調べる(2時間)		復習：	法定相続・指定相続の算定方法を整理する(2時間)		
4	相続の効力②―遺産分割」遺産は、誰が、どんな手続きで、どのように分割すればよいか理解する。						
	予習：	相続財産の共有について調べる(2時間)		復習：	遺産分割の方法と効果について整理する(2時間)		
5	「相続の承認・放棄」単純承認、限定承認、相続放棄のそれぞれの意義と効果について理解する。						
	予習：	法定単純承認になる場合を調べる(2時間)		復習：	単純承認、限定承認、相続放棄の要件を整理する(2時間)		
6	「相続人の不存在」相続人が存在しない場合の手続を理解する。						
	予習：	相続人がなく、共有者・特別縁故者がいる場合について調べる(2時間)		復習：	相続財産の国庫帰属についてまとめる(2時間)		
7	「遺言1―遺言能力と遺言方式」遺言制度の意義と遺言方式を理解する。						
	予習：	自筆証書遺言、公正証書遺言、秘密証書遺言の違いを調べる(2時間)		復習：	遺言の各方式を比較し、それぞれの特長について整理する(2時間)		
8	「遺言2―遺言の効力」遺贈の承認・放棄、包括遺贈と特定遺贈の効力の違いを理解する。						
	予習：	包括遺贈と特定遺贈の効力について調べる(2時間)		復習：	遺贈の効力をまとめる(2時間)		
9	「遺言3―遺言の失効・無効等」遺言の失効・無効、遺贈の物上代位、負担付遺贈等を理解する。						
	予習：	遺贈の物上代位について調べる(2時間)		復習：	遺言の効力が問題になる場合を整理してまとめる(2時間)		
10	「遺言4―遺言の執行」遺言執行者の指定、遺言執行者の権利義務を理解する。						
	予習：	‘相続させる旨の遺言’の効力について調べる(2時間)		復習：	遺言執行者がいる場合、いない場合の執行方法をまとめる(2時間)		
11	「遺留分1―遺留分の割合」相対的遺留分と個別的遺留分について理解する。						
	予習：	遺留分の2つの意味について調べる(2時間)		復習：	相対的遺留分と個別的遺留分について整理してまとめる(2時間)		
12	「遺留分2―遺留分算定」遺留分算定の基礎財産、贈与財産の加算、遺産債務の控除について理解する。						
	予習：	遺留分算定基礎財産への該当性が問題になるものを調べる(2時間)		復習：	遺留分算定の基礎財産について整理する(2時間)		
13	「遺留分3―遺留分減殺請求」遺留分減殺請求の方法・効果等を理解する。						
	予習：	遺留分減殺請求権の法的性質について調べる(2時間)		復習：	遺留分減殺請求権の行使について整理する(2時間)		
14	「平成30年改正で新設された権利」配偶者の居住の権利と特別寄与者の特別寄与料請求権について理解する。						
	予習：	配偶者の2種類の居住の権利に違いについて調べる(2時間)		復習：	配偶者居住権と特別寄与料請求権を整理してまとめる(2時間)		
15	学期末理解度確認テスト・解説						
	予習：	第1回～14回の講義内容の総復習(2時間)		復習：	レジュメ・教科書・判例の再読(2時間)		
その他	対面授業の場合、携帯電話(スマートフォン、タブレットも含む)は電源を切るか、マナーモードにすること。 対面授業の場合、私語は厳禁。悪質な場合は退室を命じ、以後の受講を認めない。						